



「コンサルティングエンジニア連盟のみなさまへ」

令和2年2月
参議院議員
足立敏之

みなさんこんにちは。参議院議員の足立敏之です。

コンサルティングエンジニア連盟の皆様には、日頃から暖かいご支援を頂き誠にありがとうございます。さて、今年はネズミ年です。史料上では、『源平盛衰記』巻1に、「鼠は大黒天神の使者なり。此人の栄華の先表なり」と、平清盛の栄華を予告する存在として登場しております。一昨年は西日本豪雨、昨年は台風19号による東日本が大災害に見舞われていますので、今年は、それら災害から復活をして今後の栄華に繋がるいい年になることを祈っています。

さて、その昨年を振り返りますと、台風15号が記録的暴風により千葉県に激甚な被害をもたらし、台風19号では、直轄河川でも12箇所、県管理河川で128箇所のあわせて140箇所が破堤するなど、近年まれに見る大規模な水害となりました。

その災害を振り返ると、狩野川放水路等、事前の防災対策が効果を発揮しており、八ッ場ダムも試験湛水中ながら大きな効果を発揮しました。事前の防災対策の充実が急務であることを痛感するとともに、さらに激甚化、頻発化する水害に対して土地利用からの浸水対策等や、広域避難の検討など充実させなければならない対策も浮き彫りになりました。

昨年12月13日には令和元年度補正予算案が閣議決定され、公共事業関係費で約1.6兆円が盛り込まれています。国会で決定し次第、速やかに実施されます。また、20日には令和2年度の政府予算案が閣議決定されており、国土交通省関係公共事業関係費（通常分）は前年をほぼ維持しております。補正予算成立後速やかに令和2年度予算についても決定し、途切れのない執行をしていかねばなりません。

また、昨年改正した品確法（公共工事の品質確保の促進に関する法律）に基づく運用指針の改正については、国土交通省で作業を進めており、皆様のご意見も伺いながら、災害時の緊急対応の充実強化、公共工事に関する測量・調査及び設計の追加等を含めて、4月以降から運用開始としております。今後、具体的に環境整備が図られることと思います。

災害のみならず、インフラについての様々な課題を国土交通省OBの仲間とともに「荒廃する日本 これでもいいのかジャパン・インフラ」という本にまとめ、日経BP社から昨年11月に発刊しました。日本のインフラが今や世界的にみて二流・三流のレベルであると指摘するとともに、高度成長期に整備したインフラが一斉に老朽化して衰えていくことにも警鐘を鳴らしており、今後のインフラ投資の必要性を訴えています。

今後、コンサルティング業界が発展していくためには、国政の場で、建設分野の職域代表として、様々な活動を行っていく必要があると考えています。皆様に、引き続き暖かいご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。